

仕事納め式にあたり一言ご挨拶を申し上げます。

まもなく年末を迎えますが、今年是国内外の政治的枠組みが揺るがされる事件や事案が目立ちました。すでに二年をまたぐウクライナ戦争はいまだ収束の気配すら見えず、これに加えてイスラエルによるガザ地区侵攻は、中東地域の不安定要因として世界経済や平和の秩序を根底から揺るがす事態となっています。また国内政治においても自民党の政治資金パーティにおける会計処理に関する事案が深刻な政治不信をもたらしており、先行き不透明なスッキリしない年末を迎えております。

しかしながらその一方で、平戸市における 2023 年は、様々な分野で確かな実績と今後の飛躍に向けた息吹を感じられることがいくつもありました。

まず喜ばしい報せは、市民待望でありました西九州自動車道の進展であります。去る 12 月 23 日に開催された松浦 1 号トンネルの貫通式を受けて、九州地方整備局が残る工事工程について精査した結果、令和 7 年度に松浦～平戸インター間が開通する見通しとなったことです。このことは今後の建設促進への弾みになることはもちろん、開通予定が公表されたことによって本市の観光戦略や企業誘致など地域経済にも好影響をもたらすことが期待されます。今後とも市議会はじめ地元関係団体と緊密な連携をとって事業推進を国や県などに働きかけてまいります。

もう一つ本市にとって重要な懸案でありました医師確保についてですが、長崎県福祉保健部ならびに長崎県病院企業団のお力添えにより、新年度から県の養成医 1 名が平戸市民病院に派遣されることとなりました。医師不足と偏在は、地域住民の生活や健康の安心安全を守る重要な政治課題であっただけに今回の決定は本当に喜ばしく、今後とも医療体制の充実と病院改革に関係者一丸となって取り組んでまいります。

その他にも、本年 5 月に新型コロナウイルスが感染症法上の五類に位置付けられたことをきっかけに、徐々に市内各地での活動が勢いを取り戻し、従来にも増して活発なイベントや催しにより、市内全体において交流人口の増加が見られました。

歴史を活かしたまちづくりにおいては、切支丹史料館が開館 40 周年を迎えた節目のイベントを開催し、また世界遺産の構成資産である安満岳において休憩施設が完成したことで、それぞれの魅力が倍増することになりました。さらに古くから長きにわたり伝承されてきた須古踊りについて、生月、大島、度島、獅子の各地区の団体が連携し、佐賀県白石町から関係者を招聘してサミットを開催するなど、歴史の価値を見出し再評価する新たなステージの幕開けとなりました。

それから平戸城下町旧町地区では、平戸まちづくり運営協議会による「ほのあかり事業」が高い評価を受けながら充実と深化を続け、本年「平戸ナイトミュージアム」と題する夜の観光イベントに発展することとなりました。これは昨年 12 月にイタリア発祥の分散型ホテル事業「アルベルゴ・ディフーズタウン」の認定を受け、平戸が更に観光地として発展を遂げるための付加価値戦略として有意義な展開への後押しとなりましたし、1 月と 11 月にそれぞれ開催されたガストロノミー事業などと相まって、大きな期待が寄せられることとなります。来年から本格的に進められるこのアルベルゴ・ディフーズタウン事業につきましては、九州大学大学院をはじめ県内大学からも多大なるご協力もいただいております、平戸ならではの観光戦略に位置付け、積極的に進めてまいります。

その他にも、市内各地のまちづくり協議会は、最初に発足した度島地区が 10 周年の節目を迎えることとなり、それぞれの団体による地域の独自性を活かした魅力ある取組みが進められています。今年は特に、生月と山田館浦の両まちづくり協議会が日本財団の補助を受けて、3 月と 11 月に実施した「灯台マルシェ」には多くの注目と参加者が集まり、生月島の新たな魅力となりました。

それから物産戦略においては、従来からお取引をお願いしている都市圏における大型デパートでの販売コーナーの設置をはじめ、東京有楽町交通会館におけるアンテナショップ「有楽町ひらど商館」とアンテナ居酒屋「平戸こんね」がリニューアルオープンを果たしましたし、また大正大学との連携による東京巣鴨の地蔵通り商店街における平戸物産の取引も成功し、今後の首都圏における新たな拠点づくりに期待が寄せられることとなりました。各方面との信用取引を確実なものにすることで、大都市消費地圏におけるネットワークをさらに広げ、市内事業者の所得向上のためのさらなる機会発掘に取り組んでまいります。

一方で、年を追うごとに自然災害の形態が変わりつつあります。異常気象は地球規模で私たちにとって深刻な課題となっており、そのためには環境問題もより身近で具体的なものに位置付けられています。各地区のまちづくり協議会では、ごみ拾いをイベントとして継続的に取り組んでおられますし、民間レベルにおいてもごみ拾いをスポーツにしたイベントが全国規模で開催され、平戸市もその舞台として選ばれております。こうした地道な努力をしっかりとサポートし、世代を超えた環境美化活動に取り組んでいきましょう。

これに加えて本市では、市役所の公用車 4 台を電気自動車に替え、環境問題を啓発するためのラッピングにも着手しました。その他にも、館浦漁業協同組合では大手事業者との連携により巻き網漁業で使用された P E T 漁網をリサイクルする事業が本格化し、その拠点が生月に開設する運びとなりました。また家庭や食堂で排出される食用のてんぷら油などを高純度バイオディーゼル燃料として再利用する取組みも本格化し、新年のテレビで全国に報道される予定になっています。従来から進めています木質バイオマス熱利用事業などと相まって、ゼロカーボン平戸への取組みがいよいよ具体化していくこととなります。

今年を振り返って、毎年の出来事ベスト 10 を挙げてきましたが、すでに 10 の枠組みを超えて、平戸市における活動が各分野でいくつものトピックに溢れていることは、大変誇らしいことでもあり、市民の皆様や民間事業者との連携によって着実に将来へのふるさとづくりへの実践が実を結んでいると言えます。

大事なことを申し遅れましたが、今年は 4 月に県議会議員選挙があり、新たに平戸市選挙区の大久保堅太県議会議員が、そして 10 月には衆議院議員補欠選挙があり、同じく新たに金子容三代議員が誕生されました。加えて、平戸市議会においても本日ご臨席の松本正治議長、池田稔巳副議長が着任され、新しい議会執行体制が始まりました。これまで以上に国・県・市の政治的連携を深めてまいりますとともに、改めてご指導のほどよろしくお願い申し上げます。本日は正副議長はじめ議員各位におかれましては、わざわざご臨席を賜りご激励をいただきましたこと誠にありがとうございました。来年も引き続きご指導ご助言くださいますようよろしくお願い申し上げます。

最後に、改めて本年は平戸市総合計画後期計画のスタートでありましたが、まさにその起点にふさわしい節目の年であったことを、嬉しく思っています。そして、さらにこうした夢あふれる平戸市の未来像について、職員の皆さんは、年末年始に再会する親戚や友人の方々と語り合い、十分に英気を養いながら、新年度に向けた活力を充電していただきたいと思います。その一方で、くれぐれも飲酒運転だけは絶対にしないよう固く心に刻んでいただくとともに、暴飲暴食によって健康が損なわれないよう注意してください。またインフルエンザなどにも気をつけ、うがい手洗いの励行に心がけ、健やかに輝かしい新年の幕開けをお過ごしください。

以上をもって仕事納めのご挨拶と致します。